園長通信～こころ～ №８

日本人幼稚園

2024.4.15

我が家と幼稚園との出合いは、異国の地だった。イタリアの首都ローマにあるローマ日本人幼稚園だった。在外教育施設派遣教員として、３年間、ローマ日本人学校に勤務した。ローマ日本人幼稚園は、ローマ日本人学校と同じ施設の中にあった。日本人学校の職員室のすぐ隣の部屋が日本人幼稚園のスペースだった。

息子が幼稚園に入園できたのは、ローマでの３年目、４歳になる年だった。それまでの２年間は、母親とずっと一緒だった。学校が終わり、スクールバスが出る時間に合わせて、妻が息子を連れてきた。他の子と一緒に校庭で遊ばせていた。それゆえ、息子は、一日でも早く幼稚園に行きたかったに違いない。住まいが、学校の近くだったことが幸いした。

３年目となり、念願の幼稚園通いが始まった。彼は、張り切っていた。当時の写真を見ると、常に真ん中で写っている。毎日、楽しくて仕方がなかったのだろう。彼の声が、職員室まで聞こえてきていた。こちらとしては、気が気ではない。迷惑をかけていないだろうか。騒ぎすぎていないだろうか。職員室を出て、教室に行くときには、幼稚園の前を通る。どうしても、ちらっと見てしまう。それが楽しみでもあった。

妻は、毎日、赤ちゃんを抱いて、息子を幼稚園に連れてきていた。３年目の４月に生まれた娘である。我が家にとっては、海外で暮らすだけでも、かけがえのない経験である。加えて、３年目は激動の１年となった。

ローマ日本人幼稚園には、日本人の子どももいれば、いわゆるハーフ（ダブル・ミックス）の子どももいる。言葉が通じないこともある。かえって、それがよかったように思う。息子に聞くと、４歳くらいの記憶はあるそうである。ということは、幼稚園でのことも覚えているのだろう。

この幼稚園の魅力の一つに、先生方の存在がある。園長は、現役のオペラ歌手だった。他にも、演劇俳優に画家などなど、多彩なタレント集団だった。専門のプロが、子どもたちに接しているのである。必ずや、よい影響があるはずである。それは、一言で言えば、感性なのではないか。そう思う。

彼は、日本に戻ってからは、福島の幼稚園に通った。ここでも、すばらしい経験ができた。だが、彼のベースには、ローマ日本人幼稚園での１年間、イタリアで暮らした３年間があるように思う。１歳から４歳という大事な時期をローマで暮らし、イタリアにいたのである。何らかの影響があるように思う。３年もの間、母親と一緒にいることができたことも大きかった。

ローマ日本人幼稚園のウェブページを見てみた。「少子化やコロナ禍の影響による園児数の大幅な減少のため、幼稚園の運営を継続することが困難となりました。つきましては、２月末をもちまして、ローマ日本人幼稚園を休園することに決定いたしました」とあった。それでも、引き続き園児を募集し、再スタートを切るとのことだった。ぜひ、再び特色ある教育を展開し、世界に羽ばたく大切な園児を育ててほしい。